

平成30年度第2回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	平成31年2月20日(水)
開催場所	新庄市役所第1・2会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、阿部仁美委員、齊藤浩昭委員
欠席者	なし
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、佐藤主幹、山科教育総務主査、高橋施設整備主査、齊藤主事

議事の大要

午後3時17分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

(1) ふるさと学習について

(市長) (1) ふるさと学習について説明をお願いします。

(学校教育課長) まちづくり総合計画では、(2) 施策のところにあるように、郷土に対する関心を高めるといふ狙いがあります。それに向けて目標指数に、「新庄が好きか」また「地域の行事に参加しているか」との目標指数を掲げています。新庄市の小・中学生は全国、県平均と比べて、地域行事に参加していると答える人の割合は高いです。学校教育との関連は2番に、具体的な学校の取組みは3番に書かせていただきました。文化、人、地元の農業、地元の企業などを素材に入れている学校もあります。また、大体の学校で新庄まつりの学習は行っています。ただ毎年同じ内容といえますか、学年が決まっています同じようなことを調べて発表しているという状況もあります。もっと他に良さを知っていくべきではないか、さらに新庄に愛着を持って誇りを持つ子に育てたいという課題があります。もう一方で、地域と協働で学校は進んでいくというニーズもあります。このことも踏まえて、ふるさと学習の取組みについて皆様からご意見をいただきたいと思いました。特徴的なことは、食の文化の学習など様々ありますが、どこの学校でも団体との繋がりがありません。地域の団体、祖父母、山大エリアキャンパス等です。また、学校によっては、他校と交流したり、総合学習で調べたことを自分たちの地域で発表したり、または修学旅行で首都圏に行ってPRをしたというような学校もあります。それから、今後留意していきたいことを最後の4番に書かせていただきました。特に(1)です。小中一貫教育の視点ということで、中学校区ごと地域コーディネーターが中心となって、教育委員会とも連携しながら、地域協働でふるさと学習を進めていきたいと考えています。それから、子供たちがただ調べるだけではなくて、学習した内容を積み上げていって、毎年新たな課題ができるような形が望ましいのかなと思っています。さらに相手意識をもって発信する力や課題を提言できるぐらいの力も、学年によっては必要なのかなと考えています。平成31

年度には、教育の日の記念行事として、市PTA連絡協議会主催で「ふるさと学習発表会」をやりたいという具体的な提案がありました。他課との連携をさらに深めながら進めて行きたいと思っています。先程申し上げましたが、新庄市は非常に地域に関心が高い子どもが育っているのですが、実際に中学校の校長先生の話を知ると、新庄は好きだが新庄で働きたいと思っている中学生はそんなに多くはないと感じています。それは上級学校の訪問や、この情報化社会の時代なので、いろいろな可能性を見つけて目が外に向いているのも事実です。いずれにしても、子どもたち一人一人の夢が実現するように、寄り添いながらキャリア教育を進めて行きたいと考えています。皆様のご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(市長)事務局から、ふるさと学習へのこれまでの取り組みの状況と、最後に(6)として校長先生方の実感という話がありましたが、中学生ですのでその先の進路は、まだ迷うポワーンとしたような状況の時だと思っておりますので、なかなか難しいのかなと思っております。工業団地も人材不足になってきており、工業団地に限らず農業の担い手も含めて、ここでふるさと学習をベースにして地域に愛着を持って、地域人材として活躍する子ども達をという大きな狙いがあるわけですが、現実的にはなかなか繋がっていないというこの現状を見ると、今後教育委員会の方向性としてどんなところに力を入れながら、グローバルでありローカルな人達をどう繋ぎとめていくかというようなことへの教育的な戦略というものがあるのかと思っております。委員の皆さんから、ふるさと学習への思いなど自由に意見を申し上げます。

(山村委員)ふるさと学習は、それぞれの学校で一生懸命されていると感じます。地域人材をいかに活用していくかあたりが課題だと思うのですが、実際面で、その学習を終えたときに、小学校で学んだことが次の学年、あるいは、中学校に活かされていくのかなと思っております。考え方やそういう作業、調べ方学習が活かされているのかなと実際関わってみて感じる面があります。学校では地域の先生を呼んで、発表会を聞いたり意見をもらったりしています。子供たち自身は本当に一生懸命調べ学習をやっていますが、実際この地域のことについてどれぐらい学んだのかなと。実体験として、ふるさと体験発表会を各ブロックでやって、そして最後に市全体の発表の場があれば、子供たちがよりそれに向かってがんばるといふか、いわゆる、体験活動を様々子供たちに体験させることができるのではないかと考えたところです。

(阿部仁美委員)学校訪問などで話を聞くと、それぞれの学校でいろいろふるさと学習をしていると本当によく感じます。例えば北辰小では、学区の歴史的なものを調べて、それを一つの冊子にまとめたことがあって、それが本当にすごいなと思えました。そういうものを、今年ふるさと学習発表会を計画されているようですが、他の学校も、自分たちが勉強したもの、調べたものをみんなにも教えるということが、とてもいい勉強になり、お互いに刺激になるのではないかと思いました。今日接引寺も見させていただきましたが、新庄市に歴史的にも素晴らしいものがたくさんあって、歴史センターでも、新庄市で育った方で素晴らしい方々がいっぱいいらっしゃるのだと思うのですが、やはり、新庄市にもこういうとても素晴らしいものがあって、素晴らしい人たちがいるということをもっともっと子供たちに教えていくといいと思っております。

(阿部浩悦委員)新庄市で、一番の人材育成の機会は大庄まつりであると思っております。山車や囃子に、ほと

んどの小学生が関われる行事であり、中学生になると花もらいということで、大人と一緒にそれぞれの家を回って、ご祝儀をもらいに行くわけじゃないですか、それも素晴らしい社会学習だと思います。子どもたちは、初めての花もらいで、わくわくして大人と一緒に同じ仕事ができるというのも新庄まつりの素晴らしく良い所だと思います。それは地域の良さで、地域の方々がフォローしてくれ、山車作りなどを通して、子育ても一緒にしてくれるというところが新庄まつりの本来の良さじゃないのかなと思います。

「シンジョブ」という取り組みが中学校の校長先生も非常にいい取り組みだと言っています。企業が学校に出向いて行う職場体験など、出前の講座に子どもたちが参加できるのは非常にいいことだと思うので、繰り返し「シンジョブ」の体験を進めて行ってほしいと思います。中核工業団地の皆さんもたいへん協力的です。また、商工見本市を、ゆめりあに企業 30 社くらいが集まり毎年行っており、子供たちはどうしても駒回しや四駆大会に行ってしまうのですが、親と一緒に新庄はどのような企業があるのか回って欲しいと思います。

ふるさと歴史センターも、ぜひ活用してほしいと思います。新庄まつりはもちろん、昔の民具がそうだし、新庄から出て活躍した人たちを紹介しているわけですね。峰石先生や近岡先生の作品も常時展示されており、折下吉延さんなど新庄出身で活躍された方がいらっしゃるということを見て覚え、そして神宮外苑に行ったら、あの銀杏並木は最上公園の心字池と同じ人が作ったということを感じたりする体験の原点で歴史センターがあってほしいと思います。歴史センターが新庄の大事な部分をお持ちなのかなと思いますので、小学校が主で活用していただけたらいいのかなと思いました。

(齊藤委員) ふるさと学習の良さは、地元こういう良いものがあるって、こういう歴史があるってということを知ることによって子供たちがそこで勉強になるのかなと基本的に感じます。本合海小学校でも畑なすという伝承野菜を、子供たちが地元の方の土地を借りて毎年植えています。それを自分たちの手で収穫して、今年はニューグランドホテルの料理長さんに調理していただいて食べました。そういった段階を体験出来たというところは非常に良かったのかなと思います。また歴史的には、芭蕉乗船の地や八向楯の国の名勝指定のところに全校生徒で行き、地元の方々から歴史の話をお聞きするという機会も今年ありましたので、少しずつですが、地元に触れながら、自分の生まれ育ったところの良さが伝わっていると感じています。地元の企業に出張で来ていただいて、中学生が体験することもやっていますが、実際には中学生ということで、なかなか将来的な部分どうなんだといったところまで行かないというのが現状なのかなと思います。でも、やはり地元企業にこういう良いものがあるということを伝え続けていくことが大切と感じています。

(教育長) 学校で体験はいろいろしていますが、それがわかったという程度に留まって、そのことが地域に活かされているとの体験がないと本当の郷土愛はなかなか、まだまだ、その学習が表面的な学習になっているのかなと思います。例えば、山車作りをしている子供がいない地域が多くなってきており、なかなか来られないということもあるから、子供会として新庄まつりなど、地域の伝統文化などに関わった活動を、子供会の事業としてやるなど、役立っていると感じる体験をさせてあげたいと思っています。この前、記者懇談会で、外で遊んでいる子供がいないという話がありました。雪は楽しみもなく嫌だと親が言うのではなく、一緒に親子でスキー場に行くなど雪を楽しむ体験をして、親も学校も雪をもっと楽しむ方法を考えていかないと、郷土愛はなかなか生まれられないのかな

と思います。企業についても、新庄にも大気汚染の計測器を作る企業やトヨタと連携している工場など、工業団地に素晴らしい企業がいっぱいあるということ、意外と親たちが知らないのかなと。だから新庄には何も仕事するところがないから、別に帰って来なくともいいという発想になるのかなと思います。「シンジョブ」に親たちも全員参加できるような設定で開催し、親もこない会社があることや、新庄の働き手が足りないということを知ってもらいたい。実際に参加を保護者にも呼び掛けてはいるが、仕事の兼ね合いで参加できないことがあるようで、大学生が夏休みにインターンで仕事に来るといっても、なかなか人が集まらないというのも、親たち自身が別に帰らなければ帰らないでいいと言ってしまうことが、特に低学年のうちに植え付けられることが大きいのではと思っているので、もう少しいろいろ工夫できないかと思っています。ふるさと学習のそんなところを変えられると、新庄を本当に好きになる、新庄の良さを気付いてくれるのかなと考えています。

(市長) ふるさと学習は、それぞれの学校でも成果は上がっていると思います。それを教育の日などの発表会に繋げていければ、それぞれの成果があるのかなと。もう一点、数年前から企業にお願いして、商工観光課と連携して学校訪問をしており、親子教室でやったところもありますが、祖父母教室でもいいのかなと思います。このような企業があるのかと祖父母を驚かせると、家で、お父さん、お母さんが働いているところはすごい会社だったと。祖父母の時代には、東京に出た人たちが素晴らしいというような見方があると感じています。今のお父さんお母さん方は、案外携帯などで情報を得て、現実的に知っているのではと思います。ふるさとを、体験を通して学ぶ場、あるいはそれをどう表現させるかは、1つは体験発表に挑戦していただくということ、もう1点はさっき教育長が言った雪が非常に多いという点、もう1点は、祖父母学級の件など、工夫が必要だろうと思っています。また、歴史センターの活用とでましたが、ただ我々の世代は、あそこにある農機具にはレトロで興味があって、自分の歴史と同等に歩んだような形だと思うのですが、次の時代の人たちは、「この農工具は何？」という感覚ではないかと思っています。子ども達は、歴史的に、省力化という流れの中で大変な農作業が今こうなり、昔はこうだったのだよと、きちんと説明しないと今の子供は見せてもわからないと思います。その辺のギャップもあるのかなと思います。

もう1点、これから外国人の雇用、あるいは市内に外国人の方々が、いろいろな面で入って来る時代になると思います。その時の教育についての注意点など、突然の話の振り方で申し訳ないのですが。結局、地元で働きたいという希望がそれほど多くないことから、その少ない部分を補うために外国人を入れようとしているわけです。やはり、少子化という問題、地域の経済を守るため外国人を入れるといった時に、その子供たちが家族で来た時の受け入れ方とか、そういうことが教育委員会に諮られてくるのかなと思います。そんな時のために新庄市の教育委員会として、どう対応していったらいいのか、まだ雲をつかむような話だと思いますが、もう間もなくそういう時代が来るだろうと思っています。ふるさとの中に異国の人が入って来ることを、どういうふうに捉えていくかと、教育委員会の受け止め方を、今後どうしていくのかということ、どう思いますか。

(山村委員) 前に勤めていたころ、中国からの帰国子女の子供が学校に入ってきたという経験があります。言葉が通じず、子供にどういうふうに指導、あるいは家庭との連携をしたらいいのかというのが一番困りました。そんな時、支援サークルのようなものがあるということが分かって、サークルの人たちと学校関係と連携を取っていくことをまず考えました。教育委員会としては、学校教育と

外国人の方の職場というか、いわゆる言葉の連携をどのようにしてうまく持っていくかあたりが今後課題になってくるのかなと思います。言葉さえわかれば、身振り手振りで子供が一番早くわかります。ですから子供を通しながら教育委員会としては、その会社あるいは学校とのコミュニケーションが生まれてくるのかと思っています。

(阿部仁美委員) 私が新庄に来たとき、外国のようでした。言葉が全然わからなくて、英語の方がまだわかるというぐらい全然わかりませんでした。確かに不安は不安でしたけれども、皆さんが温かく受け入れてくれたので、家族だけではなくて、婦人会などもありましたし、みんなが私のことを心配してくれて、親戚の方なども温かく迎えてくれていたので、少しずつ言葉を覚えられました。やはり個人として生きていくのではなくて、どこかの中に入って生活していく方が、馴染みやすいのかなという気はします。家の隣に韓国からお嫁に来た方がおりますが、何も言葉がわからないまま結婚されたそうで、最初は何もわからなかったと言っていました。今は本当に日本語とても上手ですし、すごく日本社会に馴染んでいる感じです。就職するにしても、一人で生活していくのはとても大変なのではないかと思っています。だからホストファミリーとか、そういうところで一緒に暮らしていくとかいう体制があると、馴染みやすいのではないかなという気がします。

(阿部浩悦委員) 今度コアカレッジでも、留学生を引き受けると聞きました。以前コンピュータ専門学校のころ、最初は中国の子が多くて、うちにもバイトがいましたがその中の一人とのコミュニケーションが英語でした。行政の場で、2か国語できたら採用に有利ですよというくらいのことをどんどん言って、新庄市で働きませんか、採用してもらうのはどうかと思うのですが、それは現実離れしているかもしれませんけれども。実際、宿屋の中でどうしますかということが常々言われるわけです。インバウンドで、これからどんどん来るときに。支払いもキャッシュレスの時代ですから、そういうのを取り入れてくださいねと。実際、それまでは、しばらく時間がかかるはずなので今じっくり対応を考えておくことが大事です。欧米の方だけでなく、台湾の方や香港、そして東南アジアの方もどんどん来るような世の中で、新庄では、介護士とか看護師として働くというケースが考えやすいところだと思います。そういった方々と意思疎通できる人を、民間から探してくるよりは、行政の立場にそういう方がいると非常に助かるじゃないかなと思います。やはりコミュニケーションというのは、ICTに頼らず、面と向かっていうのが大事なので、そこら辺を大事にできるような人材が、本当にこれから必要となって来ると思います。皆さんが優しく接していただけるように、優しい会話ができるような人材を育成できないかなと思いますね。

(斉藤委員) 新庄市の企業でも、中国人の方がいっぱい働いている企業があるわけですが、教育を受けてそこに入ってきて、ある程度わかって来ている方がほとんどじゃないかなと感じます。一緒に3~4人まとまって買い物なさったりする姿をよく見ますが、そういう方々は会社とあとそのグループとの付き合いくらいで、点なのかなというふうに感じています。それが家族で新庄に来られた場合に、子供をどうするかとか、お父さんどうする、お母さんどうするといろいろ不安な部分がいっぱいあると思います。そういうところを、点と点を結びつけてあげられるような、そういったお手伝いができるのが教育委員会の役目なのかなと、漠然とですけども感じています。そうすれば不安が少し和らぐでしょうし、特に日本の中で子供さんを大きくするといった場合に、ご両親の心配はすごく大きいのではないかなと思います。そこを解消してあげるある程度の決まり事みたい

のものを持っていけば、安心されるのではないかなと感じます。

(教育長) 一人や二人で来ても孤立感を持つので、やはり仲間がいると、聞いたり教えたりすることができるから良いと思います。そうできる人やその言葉をできる人など、教育委員会としてリストアップして体系化し、何かお手伝いできることなど、いろいろな形でしていかなきゃいけないのかなと思います。日本の教育、風習、考え方そのものが子育てについても違い、学校で聞く耳がないという親御さんもいる。そういう教育とか風土の中で、理解し繋いでくれる人は同じ出身の国の人だと思ふし、日本語教室もしかりだけれども、ただ言葉を教えるだけでなく、そういう日本の風習まで突っ込んで教えて行かないと、なかなか世の中に馴染まない。それを温かく教えてくれる仲間がいれば、スーッと入っていけると、私も感じています。ふるさと学習にも関連してきますが、中学校や小学校で、英語を勉強するのなら、新庄の良さをガイドするくらいの目標を持つということも必要だと思います。子ども達が、英語で紹介すると自分も役に立ったという気持ちもできるし、異文化に触れる体験ができる機会になるのかなと思います。これからは中学、高校は授業すべてを英語でしろとなっている中で、最初は、新庄まつりについての説明だけでもいいし、戸沢神社のまわりの心字池もそうだけど、自分たちの中で言えるほんのわずかなことでもいいので、使える英語になって来るし、交流となってくるのかなと私は思っています。

(市長) 山村委員は中国人の家族を受け入れた体験。阿部仁美委員は外国に来たみたいだったが、周りのサポートがあつて徐々に馴染んでいったということ。阿部浩悦委員は自分のところでアルバイトを使っていた経験もあるので、そういう受入れがあれば、日本語教室的に勉強になったということ。斉藤委員は会社と宿泊所や買い物の往復でないかと、このことは大きいなと思いました。それから教育長からは英語で地域を紹介する子どもたちを作ろうという提案。これは教育委員会として、一つのテーマとしてできるのかなと思いました。要望があつた時に、中学生3人くらいで、中学生ですが地元紹介しますよと、新庄駅からふるさと歴史センターまでの間を一緒に歩いて。これを実現できたら、自信になるし、勉強意欲が10倍くらいになるのではないのでしょうか。そういうのを教育委員会で仕掛けていくのは可能かなと、今ふつと思いました。

それから、斉藤委員が言った点と点を結びつけるということでは、来年度の事業の中で、商工観光課の方で、各企業で働いている外国人のツアーを何回か組むことにしています。情報をSNSなどで母国に発信されると、将来来る人たちは情報がないと非常に不安でしょうから、新庄市は定期的に市内を案内してくれるということで、町全体で受け入れているという雰囲気を作るべきでないかなと思っています。東京で国際交流協会の専務理事と面談したときに、アドバイス受けたのが、その地域に住んでいる人たちがどう優しく接していくかということは、将来、外国人を受け入れるためにはすごく大事なことだよということでした。外国人が日本の学校を見る機会は、生徒がいなければならないので、学校の視察もどうだろうと思いました。

人材のリストアップはどこですべきかですね。教育委員会ですべきなのか、まあ社会教育的にしていくべきなのか、商工としていくべきなのか、その辺の人材のリストアップは今まで調査したことはないのではないのでしょうか。外国語を得意な方を有償ボランティアとして、これから外国から来る人が多くなるのでリストアップして。今、外国人からの電話を通訳に繋ぐシステムがあります。それを来年度消防署で現場への対応に取り入れるのですが、もうすでに観光協会ですべており、画面で操作するとそこに電話がかかり通訳をしてくれます。旅行者や救急事業にはいいけれど

も、日常会話として使うわけにはいかないから、それはさっき言ったフェイス・ツー・フェイスの問題だと思うので。教育委員会で仕掛けられるとすると、さっき言った地域のふるさと学習を英語で表現する。これは面白い取り組みになるかな。英語教育という観点でも、競って覚えようとするかなという気がしましたね。自分の地域のものを英語化されたものを、自分で表現できるという。人材をリストアップして、ぜひ日本語教室を再開してくれとの声もあるので、広域の方でもいずれ予算化して、地域で受ける人材の言葉の壁を乗り越えるように協力はしていきたいと思います。

今日のテーマ、ふるさと学習を、体験するといったことを発展させて、外国人が来る時代を迎えて、新庄市は独特の形でふるさと学習を英語で学び発表するという環境が作れたなら、相当子ども達に英語能力や表現力が付くのではと思います。英語を教えてください方たちも、柔軟に指導できたりして、面白く展開できるのかなというヒントをもらいましたので、ぜひ今後教育委員会などで検討いただければありがたいなと思います。

雪については非常に難しいのですが、町内で雪まつりをしているところもありますが、確かに子供会のあり方というか、1年間で役員が変わる、レクリエーション的なものも少なくなりつつあると、世の中忙しいのか、子供会のあり方を、もう1回教育委員会でPTAとしても取り上げ、話し合いをしてみる必要はあるのかなという気はしました。いろいろな課題はあるのでしょうけども、雪の問題から外に出ない、町内で雪まつりをしているところもありますが、それ以上に子供会のあり方というものを今後PTAとして、PTAとの協議の中で考えていかなければならないのかなあと思います

最後ですけれども、外国人受け入れのためにやるべきこととしては、人員の確保とそのための受け入れるための準備、さらには最初のふるさと学習と英語で紹介するような新しい試みができたらいいのかなというのが私の感想です。ふるさと学習について以上とさせていただきます。その他ありますか。

(市長) 他になければこれで協議を閉じさせていただきたいと思います。

4. その他

特になし

5. 閉会

午後4時47分閉会する。